

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月14日
【四半期会計期間】	第34期第2四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）
【会社名】	株式会社アミューズ
【英訳名】	AMUSE INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 畠中 達郎
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務取締役 齊藤 泰幸
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区桜丘町20番1号
【電話番号】	(03)5457-3333
【事務連絡者氏名】	代表取締役専務取締役 齊藤 泰幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第33期 第2四半期連結 累計期間	第34期 第2四半期連結 累計期間	第33期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年9月30日	自平成23年4月1日 至平成23年9月30日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
営業収入(千円)	12,369,379	16,269,344	26,122,627
経常利益(千円)	976,709	1,697,936	2,120,707
四半期(当期)純利益(千円)	398,099	968,620	1,136,992
四半期包括利益又は包括利益(千円)	410,194	994,772	1,147,550
純資産額(千円)	11,439,281	12,967,909	12,084,065
総資産額(千円)	17,220,928	21,144,932	18,257,139
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	43.01	104.86	122.96
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	64.9	59.8	64.5
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,759,976	2,653,191	3,008,445
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	208,048	256,716	578,875
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	157,485	117,934	263,873
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	5,040,298	8,060,758	5,783,607

回次	第33期 第2四半期連結 会計期間	第34期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	28.13	42.83

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 営業収入には消費税等は含まれておりません。

3. 第33期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により停滞しておりました企業生産、輸出に持ち直しの動きがみられるなど、復興の兆しは見え始めているものの、原発事故に伴う電力供給不足、急速な円高や海外経済の減速による景気の下振れ懸念もあり、依然として厳しい環境が継続しております。

このような厳しい状況のなか、当社グループは東日本大震災からの一日も早い復旧復興をお祈りし、被災者の皆様のお役に立てればと願い、アーティスト、社員はもちろんのこと、ファンの方々や全ての関係者の皆様のご協力のもと、募金活動、チャリティCDの発売やイベント開催、グッズ販売など、当社グループができる復興支援活動を考え実行してまいりました。当社グループでは今後も復興に向けた支援活動を継続して行ってまいります。

当第2四半期連結累計期間の事業概況につきましては、営業収入は、大型コンサートツアーや舞台公演などのライブエンターテインメント活動を積極的に展開し、それらの会場やオンラインショップで販売するグッズ販売収入も含め好調であり主要な増収要因となりました。

営業利益につきましては上記増収要因に加え、厳しい環境下ではありましたがCM収入をはじめ、アーティストマネージメント事業が好調であったこと、メディアビジュアル事業においてDVD販売が堅調に推移し、映画出資作品の損失減少や管理費の減少により利益が改善したこと、旧譜音楽コンテンツの活用が拡大し、コンテンツ事業が堅調であったことなどにより、全体として大幅な増益となっております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は営業収入162億6千9百万円（前年同期比31.5%増）、営業利益17億5千万円（前年同期比79.9%増）、経常利益16億9千7百万円（前年同期比73.8%増）、四半期純利益9億6千8百万円（前年同期比143.3%増）となり計画に対しても好調に推移いたしました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 〔アーティストマネージメント事業〕

当事業につきましては、福山雅治の大型全国ツアーをはじめ、ポルノグラフィティ、flumpool、ONE OK ROCKなどのコンサートや三宅裕司が演出、出演する舞台公演、TEAM NACSのソロ公演などライブエンターテインメント活動を積極的に実施し、グッズ販売も含め好調であり主要な増収増益要因となりました。さらに、桑田佳祐、福山雅治、若手アーティストのCM収入、桑田佳祐の9年ぶりオリジナルソロアルバム「MUSICMAN」の印税収入などが好調であったことも増益の要因となりました。

この結果、営業収入124億1千8百万円（前年同期比56.7%増）、セグメント利益18億4千9百万円（前年同期比42.0%増）となりました。

#### 〔メディアビジュアル事業〕

当事業につきましては、DVD販売におきまして、韓国若手俳優チャン・グンソク主演「メリは外泊中」、NHKドラマ「セカンドバージン」、劇場版アニメ「忍たま乱太郎」などであり堅調に推移いたしました。前年同期に比べ大型作品が少なかったことにより減収となりました。しかしながら、映画出資作品の損失減少や管理費の減少により増益となりました。

この結果、営業収入27億1千9百万円（前年同期比22.9%減）、セグメント利益7千8百万円（前年同期比167.6%増）となりました。

#### 〔コンテンツ事業〕

当事業につきましては、サザンオールスターズ、福山雅治、BEGIN、ポルノグラフィティ、Perfumeなどによる旧譜楽曲の販売及び旧譜楽曲の二次使用による印税収入でありましたが、著作権印税や貸与報酬の増加により増収増益となりました。

この結果、営業収入11億3千1百万円（前年同期比23.2%増）、セグメント利益2億6千2百万円（前年同期比56.1%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は80億6千万円となり、前連結会計年度末と比較して22億7千7百万円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は下記のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は26億5千3百万円(前年同期は17億5千9百万円の獲得)となりました。

これは、主に法人税等の支払額及び営業債権の増加に伴う資金減少要因等はありませんが、税金等調整前四半期純利益及び営業債務の増加に伴う資金増加要因等が上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2億5千6百万円(前年同期は2億8百万円の使用)となりました。

これは、主に投資有価証券の取得による支出及び無形固定資産の取得による支出に伴う資金減少要因等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は1億1千7百万円(前年同期は1億5千7百万円の使用)となりました。

これは、主に配当金の支払額及び少数株主への配当金の支払額に伴う資金減少要因等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	37,247,040
計	37,247,040

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,311,760	9,311,760	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	9,311,760	9,311,760	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	-	9,311,760	-	1,587,825	-	1,694,890

(6)【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
大里 洋吉	東京都世田谷区	2,505.48	26.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	390.40	4.19
株式会社キューズファミリー	東京都渋谷区渋谷1丁目7番1号	378.72	4.07
大里 久仁子	東京都世田谷区	373.56	4.01
アミューズアーティスト持株会	東京都渋谷区桜丘町20番1号	204.82	2.20
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	155.10	1.67
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	151.20	1.62
増田 宗昭	大阪府枚方市	118.80	1.28
宮下 昌幸	神奈川県川崎市高津区	101.16	1.09
アミューズ応援団	東京都渋谷区桜丘町20番1号	99.76	1.07
計	-	4,479.00	48.10

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)390.40千株、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)155.10千株であります。

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 74,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,974,200	89,742	-
単元未満株式	普通株式 262,760	-	-
発行済株式総数	9,311,760	-	-
総株主の議決権	-	89,742	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。  
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アミューズ	東京都渋谷区桜丘町 20番1号	74,800	-	74,800	0.80
計	-	74,800	-	74,800	0.80

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,802,894	8,079,894
受取手形及び営業未収入金	3,201,304	3,889,038
商品及び製品	1,411,483	1,050,659
仕掛品	1,194,412	1,144,774
貯蔵品	35,853	43,712
その他	1,274,179	1,491,330
貸倒引当金	134,587	170,839
流動資産合計	12,785,539	15,528,571
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,110,411	1,079,919
土地	1,760,487	1,760,487
その他(純額)	115,133	105,037
有形固定資産合計	2,986,031	2,945,444
無形固定資産		
投資その他の資産	293,530	269,198
投資有価証券	475,067	711,099
その他	1,729,522	1,701,034
貸倒引当金	12,551	10,416
投資その他の資産合計	2,192,038	2,401,717
固定資産合計	5,471,600	5,616,361
資産合計	18,257,139	21,144,932

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	3,931,574	5,613,768
未払法人税等	589,283	779,484
役員賞与引当金	20,660	-
返品調整引当金	28,560	16,800
その他	644,758	781,141
流動負債合計	5,214,836	7,191,193
固定負債		
退職給付引当金	762,225	789,955
役員退職慰労引当金	16,472	16,472
その他	179,541	179,402
固定負債合計	958,238	985,829
負債合計	6,173,074	8,177,023
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,587,825	1,587,825
資本剰余金	1,694,890	1,694,890
利益剰余金	8,727,247	9,600,997
自己株式	76,920	77,192
株主資本合計	11,933,041	12,806,520
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,649	4,263
為替換算調整勘定	169,856	172,319
その他の包括利益累計額合計	166,207	168,056
少数株主持分	317,230	329,444
純資産合計	12,084,065	12,967,909
負債純資産合計	18,257,139	21,144,932

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業収入	12,369,379	16,269,344
営業原価	9,461,710	12,790,824
営業総利益	2,907,668	3,478,519
返品調整引当金戻入額	3,851	11,760
差引営業総利益	2,911,519	3,490,279
販売費及び一般管理費	1,938,702	1,740,094
営業利益	972,816	1,750,185
営業外収益		
受取利息	3,101	2,846
受取配当金	1,774	2,318
持分法による投資利益	-	4,561
受取手数料	3,929	4,406
その他	7,911	2,107
営業外収益合計	16,716	16,240
営業外費用		
事業組合投資損失	-	28,941
為替差損	7,803	34,318
その他	5,019	5,229
営業外費用合計	12,823	68,489
経常利益	976,709	1,697,936
特別利益		
投資有価証券売却益	15,625	-
特別利益合計	15,625	-
特別損失		
投資有価証券評価損	18,699	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	16,068	-
その他	973	-
特別損失合計	35,741	-
税金等調整前四半期純利益	956,593	1,697,936
法人税、住民税及び事業税	449,896	769,658
法人税等調整額	76,885	68,342
法人税等合計	526,782	701,315
少数株主損益調整前四半期純利益	429,810	996,620
少数株主利益	31,710	28,000
四半期純利益	398,099	968,620

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	429,810	996,620
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,258	614
為替換算調整勘定	11,357	2,463
その他の包括利益合計	19,616	1,848
四半期包括利益	410,194	994,772
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	378,483	966,771
少数株主に係る四半期包括利益	31,710	28,000

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	956,593	1,697,936
減価償却費	106,441	106,166
貸倒引当金の増減額(は減少)	32,520	34,117
役員賞与引当金の増減額(は減少)	12,180	20,660
返品調整引当金の増減額(は減少)	3,851	11,760
退職給付引当金の増減額(は減少)	63,196	27,729
受取利息及び受取配当金	4,875	5,164
持分法による投資損益(は益)	-	4,561
投資有価証券売却損益(は益)	15,625	-
投資有価証券評価損益(は益)	18,699	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	16,068	-
事業組合投資損益(は益)	-	28,941
営業債権の増減額(は増加)	260,364	687,787
たな卸資産の増減額(は増加)	389,793	402,601
営業債務の増減額(は減少)	395,985	1,682,193
未払消費税等の増減額(は減少)	80,398	15,333
その他の流動資産の増減額(は増加)	44,652	182,079
その他の流動負債の増減額(は減少)	147,722	176,198
その他	75,147	28,503
小計	1,608,786	3,230,703
利息及び配当金の受取額	3,377	3,457
法人税等の支払額	13,106	580,969
法人税等の還付額	160,919	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,759,976	2,653,191
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	22,580	17,833
有形固定資産の売却による収入	5,308	8,279
無形固定資産の取得による支出	154,470	33,721
投資有価証券の取得による支出	-	216,200
投資有価証券の売却による収入	34,860	9,487
子会社株式の取得による支出	55,732	14,551
貸付けによる支出	25,710	2,500
貸付金の回収による収入	3,077	2,627
その他	7,199	7,695
投資活動によるキャッシュ・フロー	208,048	256,716
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	55,843	395
自己株式の売却による収入	1,645	105
配当金の支払額	91,467	89,474
少数株主への配当金の支払額	3,096	15,786
その他	8,723	12,384
財務活動によるキャッシュ・フロー	157,485	117,934
現金及び現金同等物に係る換算差額	7,035	1,389
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,401,478	2,277,151
現金及び現金同等物の期首残高	3,638,819	5,783,607
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,040,298	8,060,758

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(持分法適用の範囲の重要な変更) 第1四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社ライブ・ビューイング・ジャパンを持分法適用の範囲に含めております。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。 退職給付引当金繰入額 9,809千円 貸倒引当金繰入額 32,520	1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。 退職給付引当金繰入額 11,767千円 貸倒引当金繰入額 37,987 広告宣伝費 399,345

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在) (千円)	1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在) (千円)
現金及び預金勘定 5,061,208 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 20,910 現金及び現金同等物 5,040,298	現金及び預金勘定 8,079,894 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 19,135 現金及び現金同等物 8,060,758

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月27日 定時株主総会	普通株式	92,962	10	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間  
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年11月12日 取締役会	普通株式	92,374	10	平成22年9月30日	平成22年12月6日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月26日 定時株主総会	普通株式	92,372	10	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間  
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月14日 取締役会	普通株式	92,369	10	平成23年9月30日	平成23年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネージメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	計		
営業収入						
外部顧客への 営業収入	7,924,922	3,526,218	918,238	12,369,379	-	12,369,379
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	40,463	219,935	38,879	299,278	299,278	-
計	7,965,386	3,746,153	957,118	12,668,658	299,278	12,369,379
セグメント利益	1,301,757	29,383	168,468	1,499,609	526,792	972,816

(注)1. セグメント利益の調整額 526,792千円には、セグメント間取引消去3,520千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 530,312千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アーティスト マネージメント 事業	メディア ビジュアル 事業	コンテンツ 事業	計		
営業収入						
外部顧客への 営業収入	12,418,711	2,719,510	1,131,122	16,269,344	-	16,269,344
セグメント間 の内部営業収 入又は振替高	29,583	164,261	75,913	269,757	269,757	-
計	12,448,295	2,883,771	1,207,035	16,539,102	269,757	16,269,344
セグメント利益	1,849,074	78,629	262,956	2,190,660	440,474	1,750,185

(注)1. セグメント利益の調整額 440,474千円には、セグメント間取引消去4,653千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 445,127千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・経理部門等の管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動はありません。

(有価証券関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動はありません。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)

当社グループはデリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	43円01銭	104円86銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	398,099	968,620
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	398,099	968,620
普通株式の期中平均株式数(株)	9,256,696	9,237,140

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成23年11月14日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....92,369千円

(ロ) 1株当たりの金額.....10円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成23年12月5日

(注) 平成23年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月14日

株式会社アミューズ  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 百井 俊次 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 米村 仁志 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アミューズの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アミューズ及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。